



九州大学
グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教

船津 貴弘

GAプログラム事業支援期間終了にあたっての感想

GAには2017年1月1日に着任いたしました。2年余り、GAのプログラム終了までかかわることができとても貴重な経験となりました。私が着任してからは、予算の縮小が主な課題であったと思います。そのためにプログラムについてもインターンシップ関連予算の削減、ラボローテーションの簡素化、入コース生の定員の削減や停止などプログラムの終了に向けてソフトランディングをすべくどちらかと

いうとネガティブな話題が多かったように思います。

その中で、プログラム終了後に九大からの支援がどの程度になるかについての決定が遅く、プログラム生やメンター教員、スタッフの不安が大きかった側面もあり、その結果コース生が退コースするといったこともありました。以上のことは今後九州大学が類似の事業をする際に、改善できるようにしっかりと反省をすべき事項だと思えます。

伊都キャンパスと筑紫キャンパスの2つの離れたキャンパスをまたがってプログラムが実施されたことはメリット、デメリットの両面があったように思います。主として伊都キャンパスのほうに携わった経験からのメリットとして、資源の学生がQEや中間発表などのプレゼンテーションをする際に、総理工の先生や学生に対して行うことになるために、専門分野が異なる人たちに分かりやすく理解してもらうための工夫がされていたと思います。一方で、総理工の学生は、総理工の先生方に対するプレゼンテーションになることが多く、わかりやすく工夫するという面ではもう一歩だったと感じます。

国際的なリーダーになるべく英語によるプログラムで実施しているにもかかわらず、日本人学生の進路がこれまですべて日本国内に留まっているのは極めて残念です。他方、外国人学生では博士号取得後に日本の企業に就職を希望している者もいますが、5年間の日本滞在中で日本語を学習する機会もありながら、それを怠り、日本での就職が困難であるというは勿体ないと思います。2019年4月以降も既存の学生がおりグリーンアジアは続きますので、課題は改善しより良いプログラムとなることを期待しております。